



学校だより

＜学校教育目標＞明るい学校、仲良く進んで学ぶ子
～ 夢の創造 家庭との連携を深めて ～

6 月 号

さいたま市立大谷口小学校
平成 29 年 6 月 1 日

子どもたちの輝きのために

校長 八木澤 龍馬

第45回運動会は、保護者、地域の方々など多くの皆様のご支援と応援のもと、子どもたちにとってたくさんの思い出を詰め込んで、閉会することができました。ありがとうございました。

運動会は、感動的で楽しい場面満載でした。競技中、子どもたちの真剣な姿には、声援にも思わず力が入ります。競技や演技に頑張る姿は、言うことなしにすばらしいです。さらに、運動会には、競技や演技以外で子どもたちが活躍する場面があり、そのときの一生懸命な姿も印象に残ります。応援合戦（写真）、係の仕事、応援席での応援など、大谷口小学校のみんなが一つになって輝きました。



今日から6月です。気持ちを切り替え、授業などに落ち着いて取り組む時期となりました。

また、6月は「いじめ撲滅強化月間」として、いじめのない学校生活を目指して、みんなで考え、行動するための活動も実施します。

いじめが社会問題として取り上げられ、平成25年にいじめ防止対策推進法が公布されて5年目になりました。本校でも「大谷口小学校いじめ防止基本方針」を定め、いじめの防止や対応に取り組んでいます。強化月間の取組として、児童会を中心に「子どもいじめゼロ委員会」を開催し、いじめ撲滅に向けた学級スローガンを作成して、よりよい学校生活につないでいきます。また、担任による道徳の授業や、学級での指導を重点的に行います。

いじめは絶対に許されない行為です。いじめられてよい人など、誰もいません。他人をいじめてよい人も、いるはずがありません。いじめを見て、知らないふりをするのもしてはいけません。また、いじめと認識せずに他人を傷つけるようなことを言ってしまうたり、やってしまうたりすることも残念ながら起きています。子どもたちには、傷つける前に気付く人になってほしいし、間違いに気付いた時には、素直に「ごめんなさい」が言えるようになってほしいと思います。傷ついた人の気持ちは、容易に癒されるものではない、ということにも気付いてほしいと思います。大谷口小学校では、いじめについて、以上のような姿勢で取り組んでまいります。

ご家庭におかれましても、いじめの根絶に向けて、ご理解とご協力をお願いいたします。

昨日の朝会で、松谷みよ子さん（児童文学作家）の「苦しみに気付いてあげて」という文の一部を紹介しました。今年度の「いじめ撲滅強化月間」に向けて、子どもたちが考える一助になるように、と思います。

「イソップ物語に、子どもにいじめられる池のカエルのお話があります。いじめられている子どものことを聞いたときにこの話を思い出し、たまたまなくなって詩を書きました。〈どうか石を投げるのはやめてくれ／君たちには遊びでも／わたしたちには／いのちの問題なのだから／わたしはいつも／心のなかでさげぶのです／どうか やめて おねがいだから／わたしには いのちの問題なのだから〉」（朝日新聞 2006 年 12 月 5 日掲載、インターネットの朝日デジタル「いじめと君」のページで閲覧できます。）